

目次 CONTENTS

- 2 今月の話題「本と親しむ、本でつながる」
- 4 村長就任あいさつ
- 5 退任あいさつ・選挙結果
- 6 報告のページ「飯館村表彰式」
- 7 報告のページ「百歳賀寿」ほか
- 8 いいたて百景「秋のにぎわい」
- 10 学びの広場「陸上交歓会」ほか
- 12 ほけんとふくし「フレイルとは」
- 13 生涯学習「ソフトボール大会」ほか
- 14 お知らせのページ「秋の交流」
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 19 そのころはっ／おすすめ図書
- 20 おしらせのページ
- 21 入札結果
- 22 いいたてDIARY／ラオス通信。
- 23 こころのぽけっと／ひとのうごき
- 24 HOPES（ホープス）

本と親しむ、本でつながる

本との豊かな出会いを、未来へつないでいこう

全国で唯一、村営の書店として平成7年に開店し、多くの村民に親しまれた「ほんの森いいたて」。全村避難に伴う休業が長期化し、再開かなわず閉店することになりました。

また、村は、平成22年度に、「あなたにたつなく飯館絵本リレー事業」で、読まれなくなった絵本や児童書を全国から募集。村内の教育施設や公共施設で自由に読んでもらい、交流するラオスの子ども達にも贈る

うと計画しました。そして全国から約6万冊が寄せられた中での全村避難。本の一部は、仮設の園舎や校舎に置かれ、避難中の子ども達に贈られ、中学生が英訳に関わり村がラオスに届けるなど活用されました。

この本の整理や修復に、震災直後から関わってくださったのが「図書ボランティア」の皆さんでした。「ほんの森いいたて」閉店に伴う図書の整理にもご協力をいただいています。

豪雨で被災した熊本県球磨村の学校へ本を贈ろうと準備をする「図書ボランティア」の皆さん。準備作業は旧草野小学校体育館で行われました。ボランティアの皆さんは、震災直後にすべての本を清拭・消毒した他、分類、整理、補修などを行ってきました。



豪雨被災地の子ども達へ本を届けよう

村は、今年7月に豪雨被害を受けた熊本県球磨村に、児童書や辞書約1,600冊を寄贈しました。同村とは「日本で最も美しい村」連合の加盟村としてつながりがあります。「絵本リレー」「ほんの森いいたて」の蔵書に、学校の統合で活用されなくなった図書も加えて、「図書ボランティア」の皆さんが贈る本を選んで箱詰めしました。

10月16日には、寄贈の本の出発式が行われ、関係者などが本の発送を見送りました。出席した「図書ボランティア」の皆さんは「絵本や児童書は心が伝わるもの」「手をかけてきた本がさらに生かされることを願っています」と話していました。リレーのバトンは、10年の歳月をかけながら、人から人へ確かにつながっています。



交流センター「ふれ愛館」前で行われた出発式。



〈上〉平成24年、仮設小学校で「絵本リレー」について学び絵本を楽しむ児童。〈下〉オーストラリアから寄贈を受けた移動図書館車両「こあら号」が、仮設園舎・校舎、仮設住宅などをめぐりました。



交流センター「ふれ愛館」で「ほんの森いいたて」の本の一部を展示中。貸し出しも行っています。



「ほんの森いいたて」は村役場に隣接する「ビレッジハウス美園杜」内にありました。



今月の表紙

10月27日、杉岡誠新村長が初登庁し村民や職員約200人が庁舎前で出迎えました。杉岡村長は「ありがとうございます」「よろしく願います」と人々の列に声をかけ晴れやかな表情で登庁しました。総務課総務係の高橋萌育から花束の贈呈。